

線 射 放

海外の災害

時の緊急救援

や開発支援に

取り組むNGO

Oへの就職を

希望する人が、増えてい

る。

NGO活動推進センタ

ーの毎月一回の就職相談

日には、学生や社会人が

二十人前後集まるが、百

六十人というケースもあ

った。

だが、希望の年収額の

達成はとも容易ではない

く、しかも社会保険がそ

ろっているNGO

Oは少ないこと

を説明するよう、

参加者はシーン

とじてしまつた。



いう。

雇用保険を整備してい

るNGOは少なくない

が、労災や健康保険まで

となると、非常にまれな

のが実情だ。

早急に改善していか

ければならないが、この

ような条件の悪さのほか

NGOへの就職

にも、せつかく希望者が

いてもなかなか採用を決

められない理由がある。

NGOにはさまざまな

機関との調整が求められ

ているから、相

手に不快感を与

えるような言動

の人物はダメ

だ。他のスタッ

フとの人間関係を良好に

保たなくてはならないか

ら、協調性の無い人物は

ダメだ。

海外に出ていくと、そ

の国や地域の風俗や習

慣、人々の考えなどを

学んで尊重していく姿勢

が大切だから、独善的で

る人と接触した時、すば

らしいと思う半面、で

も、ちょっと変わった人

だな、という印象を抱い

たことはないだろうか。

そんな気持ちにさせる

ボランティアばかりで

は、NGOが社会の一構

成員として広く認知され

る日は、なかなか来ない

だろう。

会社との人間関係や仕事

がいやになって、という

だけでは、NGOはまっ

たく受け入れられない。

NGOで働くことに純粋

な価値観を見いだして、

名乗り出て来ていただけ

たい。(小林 米幸 II A

MDA・アジア医師連絡

協議会日本副代表)